

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年10月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103730号
法人名	(有)友星メディカル
事業所名	グループホーム笹貫の家
所在地	〒891-0114 鹿児島市小松原1丁目1-2 (電話) 099-268-2627
自己評価作成日	平成24年9月19日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が主体・中心となって、利用者ご本人のペースでゆっくりと過ごしていただき、またできることはできるだけ、ご自分の力で行っていただくことで、ご本人の自尊心やプライドを保つことができるようにしています。また本人やご家族に寄り添うようなケアを心がけて、理念に掲げていることを日々実践しながら職員全員でのチームワークで利用者や家族を支援してできるように努めています。またご家族や地域の方々々が気軽に来訪、面会に来ていただけるようなアットホームな雰囲気を常に意識して、何でもご相談していただけるように努めています。1年を通して外出や室内のイベント等にも力をいれており、毎月1度のペースでイベントを計画しており、利用者や家族にも喜んでいただいています。また外出や室内での催しの計画をたてる際は、本人やご家族の意見やアイデアを多く取り入れて、職員だけでなく、利用者や家族、時には地域の方々々が一体となり、計画を立てて、その催し行っております。利用者はもとより、家族や支えてくださる地域の方々、職員がいつまでも笑顔の絶えないゆっくりと安らぎ過ごせるグループホームになるように日々、皆様のご協力をいただきながら運営に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笹貫電停のすぐ近く、商店街の一角に位置し、買い物、交通、学校、病院などの利便性の良い環境に建てられているグループホームである。理念とは別に今年度の目標「職員の意欲向上とスキルアップ」「外部評価と自己評価への取り組み」「地域との協働と情報発信」を掲げ、取り組みを強化している。特に、地域との協働は毎月の清掃活動や新しい試みとして地域の夜間パトロールに参加するなど積極的に交流の機会を増やしている。また、地元の理髪店や飲食店を利用し、近隣との交流も深めるなど、災害時の協力体制の構築にも活かしてホームの理解者、協力者の確保に努めている。

活発な利用者が多く、日常的に散歩や大型スーパーへの買い物など個別の外出支援ができています。また外出レクリエーションとして家族もともにショッピングセンターへ買い物ツアーに出かけたり、ソーメン流し、弁当持参で季節の花見に出かけたりしている。ときには、ファミリーレストランへも出かけて「食」を楽しむこともある。排せつ支援についても個々のパターンを把握できるように記録を工夫して、日中はトイレ誘導を行ってトイレでの排せつを支援している。入居後に改善された利用者も多く、現在自立している利用者も多い。毎月のミーティングは基本全員参加であり、日常の申し送りも1・2階合同で行って全職員が全利用者を把握できる体制を築いている。また、1階職員から見た2階利用者の気づき、2階職員からの1階利用者の気づきもあげてもらい、少しの変化も見逃さないように工夫している。

利用者の笑顔や会話がホームの雰囲気を明るくしており、ときには職員と冗談を言い合うなど良好な関係が築かれている。家族からも「入居してから表情が明るくなった」「本人が楽しく暮らしている」とのコメントもあり、安心して暮らせる「家」である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者一人一人が主体となって生活できるよう、理念を根本として管理者や職員は理念の実践をしている。また毎朝の朝礼で理念唱和を行っている。	利用者が地域と関わりながらその人らしく生活でき、より多くの笑顔で安心して過ごせるように支えていくことを理念として作成している。理念は玄関と事務室、交流室に掲示してパンフレットにも明記している。職員は毎朝唱和し、ときには、毎月のミーティングで理念を確認することもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度就業前に利用者と共に地域清掃に取り組んでいる。近隣の理髪店やスーパーなどで顔なじみの関係ができていて、日常的に交流を深めている。	町内会に加入して回覧板を届けたり、地域の掲示板を利用して事業所の行事案内を行っている。毎月の清掃活動には利用者も参加し、今年度より職員が夜間パトロールにも参加して交流の機会を増やしている。また、地元の理髪店、飲食店を積極的に利用してホームの理解者・協力者の確保に努めている。高校生の実習、小学生のサマーボランティアの受け入れ、地域に開かれたホームの運営がなされている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議に家族・地域の方に参加いただき認知症をテーマとして認知症理解に努めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営報告自己評価・外部評価に関する報告や今後の取り組みについて地域や家族の方と意見交換できている。会議のお知らせや内容はホーム便りに掲載して伝えている。	運営推進会議は町内会長・民生委員・家族代表・利用者・包括支援センター職員などの参加を得て2ヵ月に1回行われている。ホーム便りでも運営推進会議のお知らせを掲載して気軽に参加して頂けるように促している。また、避難訓練時に運営推進会議を行うこともある。	

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員とは運営推進会議で情報交換や取り組みについての相談している。市の保護課や介護保険課などサービス上のことで相談・協力・助言をいただいている。	事故報告や困難事例など日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの確認と毎月のミーティングにより全職員へ周知徹底と理解を深めている。玄関施錠は緊急やむをえない場合の3要件を満たした場合に限り行うようにしている。	契約書21条に「原則として身体拘束は行いません」と明記して拘束のないケアに取り組んでいる。また、定期的に職員個々にマニュアルに目を通すことを徹底させ、事例検討会や毎月のミーティング時に職員全員で拘束について話し合う機会を設けている。日中は居室や玄関の施錠はせず、近隣の協力と職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止マニュアルを定期的に回覧し、虐待に関する理解を深めている。入浴時や日々のケアで声かけの反応等で確認し、月々のミーティングで虐待に相当するものがなかったかの確認と反省を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護の内・外の研修に参加し学びや理解を深めている。現在のところ該当する利用者はいないが今後に必要な可能性があるので、話し合うようにしている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書の説明を十分に行い本人や家族に疑問点について確認を行っている。また具体例を示し、内容の説明をわかりやすく行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を主に活用し、利用者や家族の意見を反映できるように努めている。また意見箱や相談・苦情ノートに面会時やお電話にてしていただいているが、普段から何でも話しやすい雰囲気作りをしている。	日常の面会時に意見・要望を聞き出すようにしている。また、年2回家族会を開催しており、毎回、多数の家族が参加してスタッフとの交流及び意見・要望などを聞く機会となっている。出された意見や要望については職員全員で話し合っ運営に反映させている。重要事項説明書に第三者委員も明記されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気作りをしており、主に月例ミーティングや管理者会議の場で職員の意見を反映させている。	全職員が全利用者を把握できるように毎朝の申し送り、月例ミーティングは全員参加で2ユニット合同で行っている。職員から違う階の利用者についての気づきが出されることもあり、ケアの見直しにも活かされている。また、内部研修、ユニットごとのカンファレンスも定期的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理より、連絡相談を受けて職員状況を把握している。また時には配置転換や各個人に見合った異動等を適宜行っている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内・外の様々な研修案内を随時通達していて、管理者や職員はそれぞれの段階に見合った研修に参加している。また新人職員の研修はベテラン職員が主に担って行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者会議で管理者同士の交流や情報交換を行っている。又研修先で知り合った他同業者とも情報交換など行い交流を深め、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回時に本人・家族からの聞き取りをじっくり丁寧に行い、入居後1週間の生活状況を24時間シートに記録し本人に気持ちや思い、要望などの情報収集を行い、職員全員が共有しご本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回時に本人や家族からの聞き取りを丁寧に行い、ホームへの要望やニーズをできる限りは反映するようにしている。またこまめに連絡したり、面会された時に職員全員で関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や計画作成担当者との面談で本人・家族が何が必要としているかを見極め、GH入居利用以外のサービス利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人本位の生活を送ってもらうように寄り添うケアに努め、洗濯畳みや調理家事などできることはしていただき、声かけも本人にとって不快じゃないかを確認して意識しながら関係作りに努めている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などの機会を多く持つていただき、家族からの相談に応じたり、こちら側からも相談を投げかけ家族と共に利用者向き合えるよう家族の悩みにも心を配り共々に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって馴染みある方々からの手紙や電話・面会で関係の継続を支援している。本人が会いたい人や行きたい場所の要望があれば、家族に相談してできる限りの協力をいただいている。	日常の会話から本人の希望を聞き取り、家族の協力をもらいながら行事などにも参加できるように支援している。また、友人・知人が訪ねやすいような雰囲気作りにも配慮している。家族や親族といつでも会話ができるように携帯電話を所持している利用者や居室に電話を設置している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からの利用者同士の関係性や相性を考慮して、時には席替えなど行い、相互の関係性が悪化しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の利用者家族からの連絡や訪問は歓迎し、近況や退去後の相談に応じている。いつでも連絡や訪問していただけるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での普段からの会話の中で希望や意向を把握するよう努めている。そしてできるだけ本人の希望や意向に沿っての暮らし方を支援するように努めている。	自分の意志や思いをしっかりと伝えられる利用者からは常に会話し意思疎通を図っている。ときには、利用者から叱咤激励のことばをかけられることもある。意志疎通の困難な利用者に対しては言動、表情、家族の情報、それぞれの階の職員間の気づきなどから思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族からこれまでの暮らしについて情報を得て記入し、職員が把握し共有できるよう努めている。また日々の生活の中で得た情報がある時はカンファレンスで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りでその日の暮らしぶりや現状を把握し、気になる点は話し合いをして全職員が把握し共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで改善課題とケアについて話し合い、家族の面会時や担当者会議で本人や家族と話し合い介護計画を作成している。主治医には受診・往診時や電話で相談し、介護計画に反映している。	入居時に本人、家族の希望を聞いて、職員、主治医の意見を取り入れながら個々に応じた介護計画を作成している。外出好きな利用者には家族の協力をもらいながら外出をプランに取り入れており、家族も共に本人を支えられるように個別性のある介護計画となっている。見直しは変化がなくとも定期的に行い、退院後や日常の生活で変化が見られたら都度見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個別に記録して、職員間で情報を共有している。本人の思いや表情をとらえるような記録になるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて理髪店にお連れしたり訪問マッサージなどご本人の要望に応じたサービス提供をしている。希望があれば福祉用具やフットケアの相談印にも来ていただくことができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会やその他地域の方との関わりにより、様々な行事に参加することができる。様々な社会資源を活用してご本人にとって有意義で充実した生活を送っていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者に希望のかかりつけ医があり、受診時にホームでの状況報告を行い連携を図れている。緊急時でも相談を受けてくださる主治医が多く適切な医療が受けられる体制ができている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。本人・家族の状況に応じてホームでも柔軟に受診同行している。家族が連れていく際はホームより主治医宛てに日常の心身の状況を記載した文書を準備して直接伝わるようにしており、主治医からも返書を頂くなどかかりつけ医との関係を築いている。	

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に准看護師がおり体調変化や気づきなど観察して、こまめに報告を受けている。往診のかかりつけ医の看護師とも密に連携を図りお互いの関係性を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は担当医や看護師に本人の状況や必要な情報報告をしており、介護サマリを提出している。また早期退院につながる為にこまめに連絡調整を行うように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ看取りの経験は無いが終末期を見据えた利用者については、家族と話し合う機会を設け、またカンファレンスで職員の看取りや終末期に対しての気持ちや話し合うようにしている。看取りについての研修があれば積極的参加の意向もある。	重度化や終末期に向けたホームの方針は入居時に口頭にて説明しているが記録に残していない。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医の指示のもと、家族と話し合い、職員も方向性を共有してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。指針の明文化については、職員間で話し合いを持ってはいる。	本人・家族・職員の不安軽減のためにもホームの方針を分かりやすい内容で明文化した指針の作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は防火・防災訓練時に別に講習時間を設けて学んでいる。応急手当等はマニュアルの回覧確認をし、急変時対応の研修などあれば積極的参加の意向を全職員が示している。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練は全職員が参加対象で、消防分遣隊職員の立会・監修のもと避難方法の研修を学んでいる。また、町内や近隣の地域住民の方にも参加を呼び掛け協力体制を築いている。</p>	<p>年2回昼夜間想定で火災と地震を想定した避難訓練を行っている。同日に運営推進会議を行うこともあり、家族・地域住民の参加も得られている。近隣にも協力の呼びかけは行っており、地域における自主消防団の設立計画の途中でもある。スプリンクラー、自動通報システムは設置済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉かけや接する機会には、職員一人一人が充分配慮し利用者の人格を尊重しながら対応することを心がけている。	日常の業務の中で気づいた時に都度話し合いを持ち、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においてご本人が何をしたいのか、どうしたいのかを常々察し接するように努めている。できる限り本人の希望に沿うような自己決定を促し決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、余暇時間や就寝時間などご本人の今までの生活に近づけるように、ご本人のペースや希望に沿って支援できるように職員間で情報共有しながら努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その方の好きな衣類を把握し季節や状況に添えるようにさりげなく声かけしている。家族にも協力していただき、行きつけの理髪店や美容室に行けるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方のできる範囲で買い物同行や食材の下ごしらえ、配膳や下膳、片付けなど一緒に行っている。季節ごとの食事なども話をしながら季節感を感じてもらい楽しみながら行っている。	栄養士の資格を持っている職員を中心として献立を作成している。個々の力量に応じて準備や片づけなどは生活リハビリとして捉え出来る人には手伝ってもらっている。ときには気分を変えて、弁当持参の花見や外食(ファミリーレストラン・ソーメン流しなど)に出かけ「食」を楽しめるように支援している。また、家庭菜園もあり、季節を味わえるように利用者と共に楽しみながら収穫を行っている。	

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がおり、栄養面や食事量など考慮して提供している。また利用者個々に対応した食事形態を工夫している。水分量は1日1500cc以上を目安に摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行えるように声かけや介助をし、夜間は義歯洗浄剤で消毒をしている。また定期的に歯科受診も支援していて、歯科医師や衛生士からアドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや時間を把握し、その方にあったトイレ誘導や声かけを行い、できるだけ布の下着を使用していたできるようにその方にあった方法で工夫して排泄失敗が軽減できるように努めている。	排せつパターンが把握できるように記録を工夫している。職員は利用者のサインやパターンを把握しており、タイミング良くトイレ誘導の声かけを行っている。日中はトイレでの排せつを支援しており、布パンツで自立している利用者も多い。また、入居後に改善された利用者も多く、可能な限りおむつは使用しない方針で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、乳製品や繊維の多い食事の提供を行い、便秘予防の為に日中で体操や体を多く動かせるレクに参加していただくよう声かけお誘いしている。慢性便秘の方は医師に相談し下剤を処方してもらっている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間帯は決めずに、できるだけ本人が入浴したい時間にしていただき、満足いく入浴ができるように努めている。清潔保持の観点からなるべく入浴できるようにお誘いしている。	基本は一日おきであるが、個々の希望や身体状況に応じて柔軟に入浴支援を行っている。また、ときには、家族が温泉に連れていく利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しその時の状況で本人のペースで良質な睡眠が得られるように努めている。就寝前はホットミルクを提供することで、安眠を促すよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成し、利用者一人一人の服薬状況を全職員が把握するように努めている。病院受診記録と処方箋一覧ファイルを回覧し、定期的に確認作業を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴や得意とすることを把握して、できることはその方が主体となって生活に張りがもてるような支援を行っている。嗜好品の要望もできるだけ浴えるようしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望がある時はできる限り外出支援しており、冠婚葬祭や家族の集まりなどは、家族の協力をもらい希望の外出をしていただいている。また外出に際して本人の体調も考慮しながら支援している。	外出好きな利用者が多く、日常的に散歩・買い物に出かけている。また、家族の協力を得て外出する利用者もいる。全員で出かける外出レクリエーションとしてファミリーレストラン・ソーメン流しなどの外食、初詣、季節の花見、木市、地域行事見学、イルミネーション見学、ショッピングセンター買い物ツアーなど出来るだけ外出の機会を設けて利用者を楽しんでもらえるように支援している。	

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、本人がお金を管理はできていないが、お小遣いを職員が管理して使いたい要望等があれば同行して買い物やお金を使っただけではない。また代理での買い物も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を掛けたり、受ける時は何時でもできるように本人の希望に沿って支援している。手紙のやり取りも希望通りにしており、できない部分の支援は行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整は常に心地良い状態を保つように努め、利用者にとって不快な音は声かけも含め配慮している。匂いは花や料理の香りを感じられ不快な匂いはできるだけ避けられるような工夫をしている。また季節を感じられるように壁面やホール・居室のレイアウトにも努めている。	共用空間は広く、温度調節や換気、掃除が行き届いている。浴室やトイレ、台所なども利用者が出入りしやすい作りで身体機能を活かし、自立した生活が送れるように配慮されている。また、廊下にメートル表示をしてリハビリ運動の場として活用している。音に敏感な利用者のために椅子の足にテニスボールをかぶせるなどの工夫も施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に個室はないが、ゆっくりくつろげるソファの設置や利用者同士が交流できるスペースを設け気兼ねなく過ごせるような工夫をしている。またリスクの観点から見守りが行きとどくように努めている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、できるだけ本人にとってある家具や写真など持ち込んでいただけるように家族に相談し、電化製品や雑貨類など生活を楽しめるように家族に相談協力をいただいている。	使い慣れたタンス・テレビ、ラジオ、ソファ、仏壇、飾り物、家族の写真などが持ち込まれ、それぞれに居心地良く過ごせるように工夫されている。また、居室に固定電話を設置している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人がわかること、できることを生活する上で充分発揮できるような境整備や動線を工夫している。またリスクの観点から危険物は置かず、居室や浴室、台所に看板や表札をつけて工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない